

平成 21 年 5 月 26 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2006～2008  
 課題番号：18530145  
 研究課題名（和文） リスクの経済学の成立と発展に関する思想的・学説史的研究  
 研究課題名（英文） Studies in the Economics of Risk and Uncertainty:  
 Historical Perspectives and Critical Assessments  
 研究代表者  
 酒井泰弘（SAKAI YASUHIRO）  
 滋賀大学・経済学部・特任教授  
 研究者番号：40093760

## 研究成果の概要：

「リスクの経済学」が学問として市民権を得たのは、比較的最近の 1980 年代のことであるが、その起源は非常に古く 18 世紀のアダム・スミスの時代にまで遡ることが可能である。本研究においては、かかる「古くて新しい学問」の成立と発展の歴史について、その背景となる社会的基盤事情と関係づけて体系的に解明することを目指した。

本研究を推進するために、数々の国際・国内学会・研究会・ワークショップに参加した。ごく近い将来に、集大成の単著『リスクの経済思想』（ミネルヴァ書房）を公刊する予定である。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,200,000	0	1,200,000
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	600,000	3,800,000

研究分野：経済学

科研費の分科・細目：経済学史、経済思想

キーワード：リスク、情報、経済思想、保険文化、新しい経済学

## 1. 研究開始当初の背景

我々はリスクの時代の住人であり、過去幾多の経済危機に直面してきている。だが、本研究の開始当初において、リスクの経済学の成立と発展の歴史について、その背景となる社会基盤事情と関係づけて体系的に解明す

る研究は、内外の学会において非常に稀有であった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、リスクの経済学の成立と発展の歴史を現代的視点から論じること、特

にその歴史的・社会的・文化的事象を学際的に明らかにすることである。問題の時代区分としては、未明期（1700年ごろまで）、始動期（1700年～1940年）、発展期（1940年～1970年）、成熟期（1970年～2000年）、再生期（2000年頃以降）という五段階に分け、かつ将来に残された課題にも言及することを目指している。

### 3. 研究の方法

本研究活動のためには、リスクの経済学的发展の五つの段階（未明期、始動期、発展期、成熟期、再生期）のそれぞれについて、膨大な資料収集、文献複写、整理作業が要求される。この作業を円滑に行うために、複数の短期雇用者を常時雇用することを必要とした。

### 4. 研究成果

本研究成果は、さまざまな国際学会・国内学会・シンポジウム・ワークショップなどにおいて研究報告し、内外の学術雑誌に発表することができた。とりわけ、中国・東北财经大学での招待講演（2006年9月および07年9月、大連）、The Kadota Fund International Forum 2008での招待講演（2008年12月、京都国際会館）等は、研究上非常に有意義な会合であった。集大成の著作として、『リスクの経済思想』（ミネルヴァ書房）の近時公刊を予定している。

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計10件）

- ①酒井泰弘 リスク社会をどう見るか—総合的アプローチ 環境と健康 査読有 42号 2009年 85-94 ページ

- ②酒井泰弘 新世紀にふさわしい新経済学  
のすすめ 創文 査読無（招待論文） 512号 2008年 1-4 ページ

- ③酒井泰弘 リスク経済学について—過去・現在・未来 リスク研究・ニューズレター 査読無（招待論文） 08-01号 2008年 1-5 ページ

- ④酒井泰弘 非対称情報と市場経済のワーキングについて 彦根論叢 査読無 275号 2008年 53-86 ページ

- ⑤酒井泰弘 研究教育と大学改革—「土の香りのする経済学」をめざして 生活経済学 研究 査読有 27巻 2008年 111-118 ページ

- ⑥Yasuhiro SAKAI and Takashi SAKAI  
A Risk Analysis of the Liquid Crystal Display Industry Journal of Risk Research 査読有 Vol.10, No.6 2007 pp.871-882

- ⑦Yasuhiro SAKAI and Yuji MAEDA  
Risk Financing Through Captive Insure: Economic Influences of Captives on Corporations and the First Domicile in Japan Journal of Risk Research 査読有 Vol.10, No.6 2007 pp.793-803

- ⑧酒井泰弘 21世紀の日本社会のあり方とリスクへの備え 彦根論叢 査読無 364号 2007年 73-96 ページ

- ⑨酒井泰弘 公共政策と情報 財政と公共政策 査読有 29巻1号 2007年 3-18 ページ

- ⑩酒井泰弘・八頭司彰久 環境保険の持つ社会的役割 地域学研究 査読有 21巻3号 2006年 71-82 ページ

〔学会発表〕（計9件）

- ①酒井泰弘 (Yasuhiro SAKAI) The Role of Sciences for Sustainable Society: From

Economic Man to Total Man (招待講演)

The *Kadota* Fund International Forum  
2008, 2008年12月14日 京都国際会館  
(ICC Kyoto)

②酒井泰弘・田島正士 リスク社会の多様性  
と人々のリスク意識—調査結果の日中比  
較 日本リスク研究学会 2008年11月10  
日 関西大学

③酒井泰弘 (Yasuhiro SAKAI) Optimal  
Resource Management in the Presence of  
a Deleterious Alien Species : A Comment  
日本地域学会 2008年10月24日 公立  
はこだて未来大学

④酒井泰弘 リスク社会を見る目—総合的  
アプローチをめざして (招待講演)  
環境問題研究会 2008年2月5日 京都  
産業大学

⑤酒井泰弘 リスク経済学の過去・現在・未  
来 (招待講演)  
複雑系現象の時系列解析ワークショップ、  
2007年11月23日 明治大学

⑥酒井泰弘・八頭司彰久 わが国における環  
境保険の現状と課題  
日本リスク研究学会発表会 2007年11月  
10日 徳島大学

⑦酒井泰弘 リスク・情報・経済社会 (招待  
講演)  
現代経済ワークショップ 2007年9月8日  
中国大連・東北財経大学

⑧酒井泰弘 リスク社会と経済活動 (招待  
講演)  
未来社会研究会 2007年9月2日 新橋第  
一ホテル会議室

⑨酒井泰弘 リスクの経済学について—現  
状と課題 (招待講演)  
経済学ワークショップ 2006年9月3日  
中国大連・東北財経大学

[図書] (計6件)

①酒井泰弘・堀出一郎 (共監訳) 麗澤大学出  
版会 サットン著、経済の法則とは何か—  
マーシャルと現代 2008年 総ページ数  
237ページ

②甲斐倫明・酒井泰弘等 (共編著) 丸善株  
式会社 リスク学小辞典 2008年 総ペ  
ージ数 330ページ

③田村祐一郎・酒井泰弘等 (共著) 千倉書  
房 保険制度の新潮流 2008年 総ペー  
ジ数 300ページ

④橋本俊昭・酒井泰弘等 (共著) 岩波書店  
リスク学とは何か 2007年 総ページ数  
189ページ

⑤盛岡通・酒井泰弘等 (共編著) 阪急コミ  
ュニケーションズ 増補改訂版 リスク  
学事典 2006年 総ページ数 423ペー  
ジ

⑥酒井泰弘 岩波書店  
リスク社会を見る目 2006年 総ペー  
ジ数 223ページ

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

酒井 泰弘 (SAKAI YASUHIRO)  
滋賀大学・経済学部・特任教授  
研究者番号 : 40093760

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし